

ミライの芦屋を
聞いてきました



ドイツのベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団で第1コンサートマスターを務める、バイオリニストの日下紗矢子さん。そんな日下さんが、今はじめた芦屋市からクラシック音楽の輪を世界へ発信する活動についてお話をいただきました。

ミライに繋がる音楽活動

ドイツで第1コンサートマスターとして働き始めて12年が経ちました。3歳半からバイオリンを習いはじめ「バイオリンがうまくなりたい」その一心で走り続けた日々でした。今まで本当にたくさんの人たちに助けていただいたことや、音楽を通してできた素敵な出会いに感謝するとともに、音楽家として経験してきた大切なことを次の世代に伝えていきたいと思うようになりました。これからは「バイオリンの奏者としてだけではなく、未来に繋がるような音楽活動ができたら素敵だろうなって」そう考えた時に、自分のプロデューサーする音楽祭を私にゆかりのある大好きな土地で開催することができなにか考えるようになりました。学生の頃から国内外の音楽祭に参加

クラシック音楽の輪を 芦屋から世界へ

バイオリニスト
日下 紗矢子

する中で特に心に残っているのが、中学生の時に参加した群馬県の草津国際音楽祭でした。この音楽祭では、町の皆さんがボランティアで音楽祭の運営に参加され、音楽家の皆さんとすぐく仲良く交流し、町全体で音楽祭を盛り上げている感じが伝わってきました。会場の雰囲気がとても暖かく感じられて「こんな音楽祭って素晴らしい。私もいつかこういう音楽祭をプロデュースしてみたい」と中学生ながらに思いました。

地域密着型の音楽祭

「音楽祭をゆかりのある大好きな土地で開催したい」そう考えたときに、すぐ頭に浮かんだのが芦屋でした。私が小学生から中学生まで過ごした、ちょっと甘酸っぱいような思い出が残っている街。山と海、そしてその二つをつなぐ川が流れる風景が



日下 紗矢子 (くさか さやこ)

東京藝術大学を首席で卒業。米・南メソジスト大学大学院・アーティストコースを卒業。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団第1コンサートマスター。読売日本交響楽団特別ゲストコンサートマスター。日独両オーケストラのコンサートマスターを兼務しながら、ソロなどの活発な活動も展開。

とても魅力的です。この芦屋で自分の音楽祭をプロデュースしたいと思いました。

全国的に見ても裕福な街のイメージがある芦屋ですが、音楽的な行事は他市と比べて数多く行われているわけではありません。私が住んでいた時もクラシックコンサートを市内で聴ける機会は少なく、いつも母に連れられて大阪や京都まで行っていました。今は隣の西宮市の兵庫県立芸術文化センターでクラシックコンサートが盛んに行われていますが、私手がけようと考えている「芦屋国際音楽祭」ではコンサートホールで開催されるものとは少し雰囲気の違い、手作り感満載の音楽祭にしていただろうと思っています。できる限り芦屋の皆さんにご協力をお願いして、運営から開催までいっしょに参加していただき、地域の皆さんを巻

き込んだ地域密着型の音楽祭を作り上げる。そうすることで、単なる奏者と聴衆の枠を超えた深い繋がりが生まれ、皆さんに愛される音楽祭になつていくと思います。

子どもたちにクラシック音楽を

音楽祭では、子どものためのコンサートも開催したいです。今は、日本だけでなくヨーロッパでもクラシック音楽を聴く人の年齢層が高くなっています。どうやって子どもたちにクラシック音楽に興味をもってもらうか、大きな課題です。クラシック音楽を子どもたちに聴いてもらいたいでもらうには、気軽に子どもたちが聴ける機会を作ることが大切だと思います。

この音楽祭を聴いたことがきっかけで、まったくクラシック音楽に興味

をもっていなかった子が「こんなふうに弾いてみたい」とか「この曲が好きだな」と思うことで楽器を習いはじめたり、音楽家への道を目指すきっかけになったり、クラシック音楽が好きになったり、そんな風にも子どもたちの将来の選択肢が広がる場所を作りたいと思っています。

芦屋国際音楽祭の開催

2020年4月に第1回芦屋国際音楽祭の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により残念ながら中止になりました。今は来年の開催に向けて準備しています。音楽祭は、芦屋カトリック教会をメインの会場にして、肩肘を張って聴くような感覚ではなく、リラックスした心地よい感覚で皆さまに演奏を楽しんでもらいたいと思っています。特にお子さんがい

らっしゃるご家族や、クラシックコンサートを一度も聴いたことがない方達にも、日本そしてヨーロッパの第一線で活躍する音楽家の演奏をぜひ聴いていただきたいです。

今は、インターネットで簡単に音楽を聴ける便利な時代ですが、生で音楽を聴いた時の感動や高揚感は、生きていることの喜びをもたらしてくれません。毎年、開催回数を重ねていくことで、数年後には市内のいるいるな場所を音楽祭の会場に広げ、よりたくさんの方の音楽家、聴衆、芦屋の皆さんがこの音楽祭に参加していただけるように発展させていきたいです。音楽を通じて世代を超えた交流の場を作り、芦屋、そして音楽界の未来に繋げていきたいと思っています。そして10年後・20年後には芦屋から世界へクラシック音楽を発信していけたらと夢を見ています。